

子ども読書支援センターニュース No.167

2018. 4. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年5月1日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《4月のおはなし会で使った本》

『あっ!』 中川ひろたか/ぶん 柳原良平/え 金の星社 2008

『はなのみち』 岡信子/作 土田義晴/絵 岩崎書店 1998

『いちご』 平山和子/さく 福音館書店 1989

『まこちゃんといっしょ』 新沢としひこ/脚本 長谷川義史/絵 童心社 2007

★新刊児童書閲覧会

○日時：平成30年5月19日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成30年5月16日（水）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★幼稚園・保育園のための子ども読書研修会

○日時：平成30年6月23日（土）13：00～15：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：徳永 満理氏（社会福祉法人おさなご保育園理事長）

○演題：「絵本と子どもが出会ったら～イメージを育てる読み聞かせ～」

○対象：県内の幼稚園教諭、保育士等 ○定員：60名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成30年6月15日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『かぜビューン』 tupera tupera/作 学研プラス 2018.2 ¥950

鼻水をたらーりとたらしている男の子に風がビューンと吹いてきて、鼻水が真横に飛んでいった！更に、アイスクリームを食べようとしている男の子にも風がビューンと吹いてきて…。しかけページをめくると、風に飛ばされた姿が登場！風のいたずらをユーモアたっぷりに描いた、ページをめくると一緒にいたずらをしているような気分になる楽しい赤ちゃん絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『はじめてのがっこう』 フルール・ウリー/作 石津ひろ/訳 パイインターナショナル 2018.3 ¥1300

はじめて学校へ行く日の朝、こぐまは「ぼく、学校に行きたくない」とつぶやいた。「忘れ物をして先生に叱られる夢を見たの。友だちもできなかったし、学校の中でまよっちゃた…。」不安でいっぱいこのこぐまを母さんぐまは優しく抱きしめ、学校がどんなに楽しいところかを語り、一緒に学校に向かう。明るい色使いの絵も親しみやすい。入園・入学前の子どもにすすめたい絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『密林-きれいなひょうの話』 工藤直子/おはなし 和田誠/え 瑞雲舎 2018.2 ¥1400

ある日ひょうが目覚めると、自慢の斑点模様がたったの3枚に。困ったひょうは斑点を探しに出掛けるも、出会った動物たちに次々と斑点をあげてしまい…。最後にひょうが自分の斑点にしたものとは？密林-きれいなひょうになった姿に、思わず笑みがこぼれる心あたたまる絵本。ほのぼのとした表情の動物たちと、ユーモラスな文章が魅力的。銀河社1975年刊の再刊。

<絵本-小学校低学年から>

『イオマンテ めぐるいのちの贈り物』 寮美千子/文 小林敏也/画 ロクリン社 2018.2 ¥2000

アイヌの男の子は、父親が山から連れて帰った小熊といつも一緒に遊んでいた。ある日、大きくなった子熊をカムイ（神）の国へ送る、熊送りの儀式「イオマンテ」をすることになり…。先住民族アイヌを題材とした、命と魂の大きな巡りについての物語。アイヌの暮らしを、落ち着いた色調の背景と黒色の線で描く。2007年刊を一部加筆修正した新装版。

『炎をきりさく風になって-ポストンマラソンをはじめて走った女性ランナー』 フランシス・ポレットィ、クリスティーナ・イー/作 スザンナ・チャップマン/絵 渋谷弘子/訳 汐文社 2018.2 ¥1800

毎年1万人以上の女性が走るポストンマラソン。しかし1972年に女性の大会参加が正式に認められるまでは、女性に長距離走は無理という理由で、女性の大会参加は禁止されていた。1966年、24歳のボビー・ギブは正式参加が認められないまま出場し、女性として初めてポストンマラソンを完走する。周囲からの圧力や常識を打ち破り、後続への道を切り拓いた女性の伝記絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『羽毛恐竜-恐竜から鳥への進化』 大島英太郎/作 真鍋真/監修 福音館書店 2018.3 ¥1500

大昔に独自の進化をとげた恐竜は、すでに絶滅した生き物だと思われていた。しかし近年、羽毛をもつ恐竜の化石が次々と発掘さ

れ、恐竜は今も、鳥として生き延びているということが明らかになってきた。最新の研究データをもとに、恐竜が鳥へと進化する過程をじっくりと描いた科学絵本。著者による子ども向けの解説あり。著名な恐竜研究者が監修し、一文を寄せている。

『ぼくは発明家 アレクサンダー・グラハム・ベル』 メアリー・アン・フレイザー/作・絵 おびかゆうこ/訳 廣済堂あかつき 2017.11 ¥1600

アレックは、幼い頃から音や聞こえ方に対する関心が高かった。それは、お父さんが声を出せない人たちに発声法を教える先生だったことや、お母さんに難徳があったためだと思われる。人の役にたつ発明がしたいと願うアレックは、失敗してもあきらめずに実験を続け、ついに電話を発明する。グラハム・ベルの子ども時代や、教育者、発明家としての活躍を描いた伝記絵本。

<読み物ー小学校低学年から>

『ぼくはなんでもできるもん』 いたうみく/作 田中六大/絵 ポプラ社 2018.3 ¥1000

たっくんは、1年生になったばかり。ランドセルには、黄色いカバーを付けさせられ、学校に行けば、下駄箱に6年生のよりこちゃんや待ってて、色々お世話をしてくれる。でも、みんなわかってない。「ぼくはなんでもできるもん！」でも学校検閲の日、来てくれるはずのよりこちゃんが来ないので、たっくんは一人で学校をさまようことに…。新入学時に読みたい1年生あるあるの1冊。

<読み物ー小学校中学年から>

『グドーさんのおさんぽびより』 たかどのほうこ/著 佐々木マキ/え 福音館書店 2018.2 ¥1800

本を貸し借りしたり、一緒にお出かけしたり、疲れたらお茶したり。9歳の女の子キーコちゃんと、年の離れたお友だちである、おじさんのグドーさんと、イカサワさん。3人が織りなす、なんでもない、力の抜けた毎日の物語。5分程度で読み聞かせ可能な20篇のお話と、絵本作家によるほのぼのした40点の絵を収録。『Web 福音館』掲載に加筆修正して書籍化。

『レインボールームのエマ』 戸森しるこ/作 佐藤真紀子/絵 講談社 2018.2 ¥1200

あたしは人形のエマ。小学校の中にあるスクールカウンセラーの部屋・レインボールームにいて、いつもみんなのことを見てるのよ。女の子になりたい小3の出口君に、自分に自信がなくてマスクがはずせない小5の佐藤さん。そして、カウンセラーの入口先生だって悩みは多いらしく…。人形のエマの視線で書かれた、カウンセラーの仕事がわかる1冊。スクールカウンセラーの豆知識つき。

<読み物ー小学校高学年から>

『となりの火星』 工藤純子/著 講談社 2018.2 ¥1400

空気が読めず、思ったことをストレートに言うてしまうかえで。自分の中に「化けもの」がいると思いこんでいる、キレやすい和樹。マイナスの感情があふれるとパニックになる美咲。人を疑うことをせず、すぐに騙されてしまう湊。中学受験の失敗がコンプレックスの、湊の兄の聡。生きづらさを抱える子どもたちが、自らの個性とともに生きる楽しさに気づいていくお話。

<読み物ー中学生から>

『ぼくはここにいる』 さなともこ/作 かみやしん/絵 童話館出版 2018.3 ¥1300

イジメ、シカト…学校生活に疲れた14歳のボクは、ある夜、屋上から飛び降りようと。ところがフェンスに足をかけたそのとき、「お命、預からしてもらいます」(原文のまま)と声がかけて体が宙に浮いた。毎日がつらい子どもたちへ希望を届ける短い物語。作者は山口県出身。講談社1998年刊を一部修正し、かみやしんのイラストで新たに出版。

『ヒトラーと暮らした少年』 ジョン・ポイン/著 原田勝/訳 あすなろ書房 2018.2 ¥1500

1936年、7歳で両親を亡くしたピエロは、叔母に引き取られパリからドイツのベルクホーフへ。ヒトラーの山荘で働く叔母の元で、時々訪れるヒトラーに可愛がられるうちに、総統閣下に心酔し…。7歳から16歳の多感な少年時代に、友だち思いの優しい少年が、ユダヤ人の親友と縁を切り、少しずつ高圧的な態度を身に付け、自らが「迫害する側」へと変わっていく様を描く。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『今日は何の日?366 日大事典』 校内放送研究所/編 あかぬ書房 2017.12 ¥5500

「4月14日、熊本地震が発生し、震度7を記録した日」、「12月2日、日本人が初めて宇宙へ飛び立ち、成功した日」など。1年間366日、歴史的発明や事件・災害の記録などを毎日1件、「昼の放送」で放送委員が読み上げやすい文章で紹介。記念日、歴史上の人物の誕生日、クイズも掲載。また、現役アナウンサーによる伝え方のコツ、この本を活用した放送委員会の実践も紹介する1冊。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『クニマスは生きていた!』 池田まき子/著 汐文社 2017.11 ¥1500

世界で唯一のクニマス生息地であり、神秘の湖と言われた秋田県の田沢湖だが、クニマスは1950年に死滅。しかし、2010年、山梨県の西湖で発見される。なぜ500km離れた湖で、見つかったのか。そして、再び、田沢湖にクニマスを里帰りさせることができるのか。クニマスが私たちに問いかけるメッセージ。第64回青少年読書感想文全国コンクール小学校高学年の部課題図書。

<ノンフィクションー中学生から>

『ロボットが家にやってきたら… 人間とAIの未来』 遠藤薫/著 岩波書店 2018.2 ¥800

ドローン、AI家電、自動運転車、人工臓器…生活の中に入り込んでいるロボットやAI。東西の文化の中で人間が生み出してきたロボットやAIの歴史を紹介し、現代のロボットブームを生きる人々の意識や社会の変化を写真や図、統計資料を用いてわかりやすく解説。技術革新によって社会が大きく変化していく中、ロボットと人間の共生する社会のあり方を考える。岩波ジュニア新書。

<研究書>

『学校図書館はカラフルな学びの場』 松田ユリ子/著 ペリかん社 2018.3 ¥1500

神奈川県立高校で学校司書として「ぴっかりカフェ」など、学校図書館における多様なアプローチを試みる著者が、その豊富な実例を写真とともに紹介し、学校図書館における学びと学校図書館の使命について考える。生徒のやりたいから始まった大演芸大会、知りたいから始まった著者との交流など、多様な楽しい学びを育むエピソードを生き生きと紹介する。なるにはBOOKS別巻。